

山崎庄兵衛の西国巡礼と四国遍路

稲村出立から伊勢神宮まで

明和5年(1768)の4月から7月にかけて、稲村の山崎庄兵衛は、西国三十三か所観音巡礼と四国八十八か所お遍路の旅に出ています。

山崎庄兵衛の巡礼と遍路の行程は、納経帳に記された寺社名と日付から知ることができます。

納経帳とは、寺院に参詣し写経を奉納した際に、その受領印(宝印)を押していただく帳簿の様なもので、後のご朱印帳を言います。

庄兵衛の納経帳によれば、4月8日には江戸の寛永寺と浅草寺に参詣していることから、稲村を出立したのは、前日の4月7日と考えられます。

4月8日は、お釈迦様の誕生日で灌仏会(かんぶつえ)とされていますので、この日を巡礼と遍路の始まりの日と選んだのでしょうか。

その後東海道を西に上り、4月10日には時宗の総本山である相模国藤沢の清浄光寺(しょうじょうこうじ)別称遊行寺(ゆぎょうじ)に、4月12日には伊豆国三島の三嶋大社に参詣し、次いで4月23日には伊勢神宮の内宮と朝熊岳金剛證寺に参詣しました。

【注釈】 朝熊岳金剛證寺と伊勢社内宮

江戸時代の伊勢参りは、現在と違い主に「内宮」を参拝していました。外宮は立入り出来ないの、参拝も現在のような参詣は行なえなかった。

浅熊山金剛證寺は、伊勢志摩スカイラインの途中浅熊岳にあります。伊勢大社外宮前脇からスカイラインに入って20分程、展望台からの伊勢志摩の景

色は素晴らしく、伊勢に来たという実感を目で確かめられる処です。

正式な字名は勝峰山兜率院金剛證寺、臨濟宗南禅寺派。ご本尊、虚空蔵菩薩。平安時代の天長2年(825)に空海が真言密教道場として当寺を中興したと伝えられている。「伊勢へ参らば朝熊を駆けよ、朝熊駆けねば片参り」とされた、伊勢神宮の鬼門を守る寺。

朝熊山南峰東腹にあり「朝熊山」と呼ばれる。

西国三十三観音霊場の巡礼

西国三十三観音霊場とは、現在の京都、大阪府、和歌山、奈良、滋賀、兵庫、岐阜県の2府5県にまたがる観音菩薩をご本尊とする寺院³³か所を巡る**日本最古の観音霊場**で「巡礼」といいます。

「法華経」に、観音菩薩が人びとを救いになる時に、三十三のお姿に変化すると説かれていることに由来する信仰で修行でもあります。

山崎庄兵衛は、江戸を出てから22日目の4月晦日、西国一番札所の紀伊国那智札所実方院に詣で、西国巡礼に入ります。また札所ではありませんが、高野山金剛峯寺や奈良東大寺の大仏殿、京都では方広寺大仏殿や三十三間堂などにも参詣しています。

5月23日に24番の摂津国中山寺に参詣すると四国に渡り、四国讃岐国郷照寺第78番から「お遍路さん」となり大師霊場八十八ヶ所巡りとなります。

四国遍路の満願成就後は、7月16日の西国第27番播磨国円教寺から再び西国巡礼に戻ります。

7月27日には、第33番美濃国華厳寺に参詣し、西国霊場も満願成就を迎えます。

江戸を出てから約4か月でした。華厳寺から取手に戻るまでの足取りは、不明です。

四国八十八ヶ所大師霊場お遍路(四国遍路)

四国遍路とは、四国の4か国である阿波(あわ、徳島県)、土佐(高知県)、伊予(いよ、愛媛県)、畑地又讃岐(さぬき、香川県)にある真言宗の開祖弘法大師こと空海ゆかりの寺院八十八か所を巡るものです。

室町時代中ごろに起源があるとされ、本来はきびしい修業の場でしたが、江戸時代に入ると、争いや殺戮が減り、人々が平和な世を送れるようになったため、湯治や慰安などで旅する人々が増え、江戸に於いては四国霊場巡りがブームとなりました。

信仰でしたが娯楽的要素も含まれ、平成27年には、文化庁により「四国遍路」を回遊型巡礼路と独自の巡礼文化として日本最初の日本遺産に認定されました。

さて山崎庄兵衛の四国遍路は、78番札所の讃岐国郷照寺から始まり、88番の讃岐国大窪寺までは順に巡り、次に10番の阿波国切幡寺からは逆の順番である「逆さ打」で1番の霊山寺に向かいました。

17番妙照寺、16番観音寺を参詣した後は、11番藤井寺からは、ほぼ順番通りに札所を巡っています。7月13日、77番札所の讃岐国道隆寺で四国遍路は満願成就となります。

約40日間で四国を1周したことになりますが、江戸時代は難所が多かった筈、現在でも「歩き遍路」で40日で巡るのは難しいとされています。

こうして山崎庄兵衛は、西国巡礼に戻ります。

取手市埋蔵センター資料より

明和5年 山崎庄兵衛西国巡礼、四国遍路行程記録表

日数	月/日	国名	寺社名と宗派	札所番号
1	4/8	武蔵	寛永寺 天台	
			浅草寺 天台	
3	4/10	相模	遊行寺 時	
5	4/12	伊豆	三島大社	
			伊豆国分寺 日蓮	
16	4/23	伊勢	伊勢神宮(内社)	
			金剛證寺 臨濟	
21	4/28	紀伊	熊野新宮大社	
22	晦日	紀伊	那智実方院、※1	西国1番
26	5/4	紀伊	紀三井寺 天台	西国2番
27	5/5	紀伊	粉河寺 真言	西国3番
32	5/10	紀伊	高野山金剛峯寺	
			施福寺 天台	西国4番
34	5/12	河内	葛井寺 真言	西国5番
35	5/13	大和	壺坂寺 真言	西国6番
			吉野金峯山寺 真言	
38	5/15	大和	岡寺 真言	西国7番
			長谷寺 真言	西国8番
39	5/16	大和	興福寺南円堂 法相	西国9番
			東大寺大仏殿 華嚴	
40	5/17	山城	三室戸寺 修験	西国10番
			醍醐寺 真言	西国11番
41	5/18	近江	岩間寺 真言	西国12番
			石山寺 真言	西国13番
42	5/19	都	三井寺 天台	西国14番
			行願寺 天台	西国19番
43	5/20	都	六波羅蜜寺 真言	西国17番
			清水寺 北法相	西国16番
			今熊野観音寺 真言	西国15番
			大仏殿 天台	
			三十三間堂 天台	
			頂法寺六角堂 天台	西国18番
44	5/21	丹波	清涼寺 天台	
45	5/22	摂津	穴生寺 天台	西国21番
			善峰寺 天台	西国20番
46	5/23	摂津	総持寺 真言	西国22番
			勝尾寺 真言	西国23番
56	6/3	讃岐	中山寺 真言	西国24番
56	6/3	讃岐	郷照寺 時	四国78番

<相馬霊場のご朱印は一部を除き行っておりません>

昭和50年8月8日 長禅寺奉拝朱印

相馬霊場第1番5番87番88番



相馬霊場第八十九番 文字印刷



			摩尼珠院 真言	四国 79 番
			讚岐国分寺 真言	四国 80 番
57	6/4	讚岐	根香寺 天台	四国 82 番
			一宮寺 真言	四国 83 番
			屋島寺 真言	四国 84 番
58	6/5	讚岐	八栗寺 真言	四国 85 番
			志度寺 真言	四国 86 番
			長尾寺 天台	四国 87 番
59	6/6	讚岐	大窪寺 真言	四国 88 番
		阿波	切幡寺 真言	四国 10 番
			法輪寺 真言	四国 9 番
60	6/7	阿波	熊谷寺 真言	四国 8 番
			十楽寺 真言	四国 7 番
			安楽寺 真言	四国 6 番
			地藏寺 真言	四国 5 番
			大日寺 真言	四国 4 番
			金泉寺 真言	四国 3 番
			極楽寺 真言	四国 2 番
			靈山寺 真言	四国 1 番
61	6/8	阿波	妙照寺 真言	四国 17 番
			観音寺 真言	四国 16 番
			藤井寺 臨濟	四国 11 番
62	6/9	阿波	焼山寺 真言	四国 12 番
			大日寺 真言	四国 13 番
			常楽蜜寺 真言	四国 14 番
			阿波国分寺 曹洞	四国 15 番
63	6/10	阿波	恩山寺 真言	四国 18 番
			立江寺 真言	四国 19 番
64	6/11	阿波	鶴林寺 真言	四国 20 番
			太龍寺 真言	四国 21 番
65	6/12	阿波	平等寺 真言	四国 22 番
			薬王寺 真言	四国 23 番
69	6/16	土佐	最御崎寺 真言	四国 24 番
			津照寺 真言	四国 25 番
			金剛頂寺 真言	四国 26 番
70	6/17	土佐	常行寺 真言	四国 27 番
71	6/18	土佐	大日寺 真言	四国 28 番
			土佐国分寺 真言	四国 29 番
72	6/19	土佐	神宮寺 真言	四国 30 番
			竹林寺 真言	四国 31 番

四国霊場八十八ヶ所

第一番靈山寺 奉納経

明和5年6月7日 山崎庄兵衛



西国三十三観音霊場

第十一番上醍醐寺 奉納経

明和5年5月17日 山崎庄兵衛



72	6/19	土佐	雪溪禅寺 臨濟	四国 33 番
73	6/20	土佐	種間寺 真言	四国 34 番
			清滝寺 真言	四国 35 番
			青龍寺 真言	四国 36 番
75	6/22	土佐	岩本寺 真言	四国 37 番
77	6/24	土佐	金剛福寺 真言	四国 38 番
80	6/27	伊予	観自在寺 真言	四国 40 番
			観音寺 真言	
82	6/29	伊予	龍光寺 真言	四国 41 番
83	6/30	伊予	仏木寺 真言	四国 42 番
84	7/1	伊予	明石寺 天台	四国 43 番
87	7/4	伊予	大宝寺 真言	四国 44 番
			岩屋寺 真言	四国 45 番
88	7/5	伊予	浄瑠璃寺 真言	四国 46 番
			八坂寺 真言	四国 47 番
			西林寺 真言	四国 48 番
			浄土寺 真言	四国 49 番
			繁多寺 真言	四国 50 番
89	7/6	伊予	石手寺 真言	四国 51 番
			太山寺 真言	四国 52 番
90	7/7	伊予	円明寺 真言	四国 53 番
			延明寺 真言	四国 54 番
			南光坊 真言	四国 55 番
			泰山寺 真言	四国 56 番
			乘泉寺 真言	四国 57 番
			仙遊寺 真言	四国 58 番
91	7/8	伊予	伊予国分寺 真言津	四国 59 番
92	7/9	伊予	横峰寺 真言	四国 60 番
			香園寺 真言	四国 61 番
			宝寿寺 真言	四国 62 番
			吉祥寺 真言	四国 63 番
93	7/10	伊予	前神寺 真言	四国 64 番
			三角寺 真言	四国 65 番
94	7/11	伊予	雲辺寺 真言	四国 66 番
			大興寺 真言	四国 67 番
			神恵院 真言	四国 68 番
			観音寺 真言	四国 69 番
			本山寺 真言	四国 70 番
95	7/12	讃岐	弥谷寺 真言	四国 71 番
			曼荼羅寺 真言	四国 72 番
			出釈迦寺 真言	四国 73 番

御朱印の起源は「六十六部」

御朱印の起源は江戸時代の納経帳にあり、さらに遡ると六十六部廻国聖(かいこくひじり)、いわゆる六十六部の「納経請取状(のうきょう うけとりじょう)」に行き着く。納経帳は六十六部から始まったもので、四国八十八ヶ所や西国三十三所の納経帳も六十六部の納経帳から派生した。

つまり、御朱印は六十六部に由来する。

ところが、六十六部は明治の初めに禁止されたため、一般にはあまり知られていない。

そのために、これまで御朱印の起源としての六十六部が見落とされてきたと思われます。



『日本風俗図絵』より「六十六部」


国立国会図書館蔵

浄土宗大谷派は御朱印がありません。

ご朱印帳に、お寺(仏教)と神社(神教)の朱印が混合されていると断られる場合があります。

「奉拝」は、昭和時代に創られた新語です。

限定御朱印はご朱印購入へのあおり行為に等しく、仏の教えに則しません。

95	7/12	讃岐	甲山寺 真言	四国 74 番	四国遍路の必需品 四国遍路ひとり歩き同行二人 へんろみち保存協力会 
			善通寺 真言	四国 75 番	
96	7/13	讃岐	金倉寺 天台	四国 76 番	
			道降寺 真言	四国 77 番	
99	7/16	播磨	円教寺 天台	西国 27 番	
100	7/17	播磨	一乗寺 天台	西国 26 番	
101	7/18	播磨	清水寺 天台	西国 25 番	
103	7/20	丹波	成相寺 真言	西国 28 番	
105	7/22	丹波	松尾寺 真言	西国 29 番	
107	7/24	近江	宝厳寺 真言	西国 30 番	
			長命寺 天台	西国 31 番	
108	7/25	近江	観音寺 天台	西国 32 番	
			多賀大社		
110	7/27	美濃	華厳寺 天台	西国 33 番	
	6/24 ?	土佐	延光寺、納経印無	四国 39 番	
	6/3 ?	讃岐	白峰寺、納経印無	四国 81 番	

[地図編]

[解説編]

ネット販売：

<http://blog.iyohenro.jp/product/>

※1 那智山青岸渡寺、ご本尊：如意輪観音菩薩、実方院は現在料亭瀧泉閣清涼亭となり那智大社表参道脇にあります。

※2 「六十六部」は六部ともいわれ、六十六部廻国聖(かいこくひじり)のことを指します。

これは日本全国 66 カ国を巡礼し、1 国 1 カ所の霊場に法華経を 1 部ずつ納める宗教者です。

中世には専業宗教者が一般的でしたが、山伏などと区別のつかない場合も少なくありませんでした。

また、近世には俗人が行う廻国巡礼も見られました。

なお、奉納經典 66 部のことを指して六十六部という場合もあります。

※3 国名を現在地名で。

国名	現在の地名		国名	現在の地名	
武蔵	東京都と埼玉県	東海道	近江	滋賀県	畿内、近畿
相模	神奈川県		(都)	京都市内(国名では無)	
伊豆	伊豆半島		丹波	京都府中部	
伊勢	三重県		摂津	大阪市から神戸市	
紀伊	和歌山県	畿内、近畿	讃岐	香川県	四国
河内	大阪府東部		阿波	徳島県	
大和	奈良県		土佐	高知県	
山城	京都府南部		伊予	愛媛県	
播磨	兵庫県西部	山陽道、播州	美濃	岐阜県南部	東山道又は中部地区

山崎庄兵衛の旅には、美濃から帰路の記録がないのでルートも不明です。

本来、霊場巡りには、お礼参りの仕来(しきた)りがあります。四国巡りは高野山奥の院霊廟+京都東寺、仁和寺、神光院の京都三弘法参りという。観音霊場巡りは長野市の善光寺観音堂と信州別所温泉の北向観音常楽寺にお礼参りをします。庄兵衛さん達も長野の善光寺へ立ち寄ったかもしれません…ネ。